

JACC 比較文化会報

本部事務局：〒036-8231 弘前市稔町13-1 弘前学院大学 英米文学
佐藤研究室 Tel.0172-34-5211 内線 216 satoh@hirogaku-u.ac.jp

第25回大会を振り返って

北林 利治（京都橘女子大学）

第25回大会は、6月14日（土）に京都橘女子大学を会場として開催されました。当日は、海外からもふくめて、85名の出席がありました。

午前のシンポジウムでは、「カルチャーとサブカルチャーの間」と題した共通テーマのもと、5支部より推薦された講師の先生方にご発題をお願いしました。各講師は、それぞれの研究領域の立場から、従前の研究対象である核の部分としての「文化（カルチャー）」だけでなく、その周辺部の文化現象である「サブカルチャー」を対象として独自の視点から検証を加え、比較文化研究への新しい切り口の提示を試みられました。

午後の研究発表では、6つの分科会に分かれて、合計30の研究発表がありました。いずれのご発表も、比較文化研究に新しい光をあてるものであったと思います。そのあと、本学の田端泰子氏による講演、そして、総会が行われました。最後のプログラムである懇親会では、本学の箏曲部による演奏も行われ、盛大なものになりました。

わたしは、今年の会報での、大会へのお誘いの文章のなかで、会場校のある京都山科が古来よりさまざまな文化の出会いの土地であったことを紹介しました。今回の大会で、シンポジウム、研究発表において比較文化研究の新しい観点が議論され、この大会においてもまた、京都山科の地が文化の出会いの場になりました。

本部事務局、関西支部の準備委員会のご協力に、また、当日、司会の労をとっていただいた先生方、お手伝いいただいた開催校の大学院生にあらためて感謝いたします。

第25回大会総会報告

本部事務局 佐藤 幸正

2003年6月14日（土）京都橘女子大学で開催された第25回大会では次の案件に基づき報告がなされ、審議された。

一 報告

1. (1) 『比較文化研究』発行について：56、57、58、59号が発行された。

(2) 主な送付先

国立国会図書館、Harvard-Yenching Library、郵政省郵務局、論説資料保存会など。

2. 第26回大会について

開催日 2004年6月12日（土）役員会・大会とも同日

開催校 北東北支部主管（詳細は次ページ参照）

3. 支部および研究部会報告

4. その他

二 議題

1. 人事について

2003年度の人事は、新たに4人の理事が追加され、つぎのように決定された。

会 長 芳賀馨 副会長 西村清巳、石黒昭博、太田敬雄

理 事 栗原 靖（北東北支部長）、鈴木瑠璃子（南東北支部長）、

山内信幸（関西支部長）、 奥村訓代（中・四支部長）、

梅田和郎（九州支部長）、 鹿島英一（広域アジア支部長）、

小林俊哉、南川啓一、市川鄧康、飯島武久、早川正信、引地岳雄、栗原優、

亀田政則、成沢義雄、富中康男、南井正廣、中澤紀美子、阿部晃直、佐藤 静、

井上博嗣、高坂京子、源馬英人、北林利治、山下明和、菊池 弘

監 事 町屋昌明、斧田好雄

事務局長 佐藤幸正

事務局次長 佐藤憲和

2. 第27回大会について：開催校：九州支部主管 シンポジュームのテーマ：未定

3. 『比較文化研究』編集について

(1) 編集委員に責任編集者を加えることになった。

投稿規定8条を下記のように改訂した。

「別刷りは、希望により、著者の負担で作成する。ただし、著者は本冊10部を無料で受け取る。」

(2) 関西支部編集の「欧文原稿のみ」を解除し、欧文も和文も投稿可能になった。

4. 会計報告

2002年度日本比較文化学会会計報告

収 入		支 出		
項目	金額(円)	項目	金額(円)	
2001年度繰越金	456,245	会費返還	11,000	
会費	1,636,921	送金手数料	4,500	
一般会員		公開講座受講料	21,860	
5,000×281(人)		『研究』編集補助	250,000	
=1,405,000		(No.56~60)		
3,000×71(人)=213,000		送料	10,600	
8,921×1(人)=8,921		『研究』発送費(No.56~58)	238,997	
賛助会員		交通費	52,610	
1口		10,000	通信費	20,200
			事務局費	92,397
公開講座受講料		22,000	第25回大会費	300,000
『比較文化研究』売上	18,000	振込手数料	21,100	
		会費(日本学術協力財団)	40,000	
		次年度繰越金	1,069,902	
計	2,133,166	計	2,133,166	

上記により、2002年度日本比較文化学会会計の決算を監査した結果、適正であるものと認める。

2003年3月31日 日本比較文化学会 監 事 町屋 昌明 ・ 斧田 好雄

第 26 回大会案内（実行委員会からのお知らせ）

第 26 回日本比較文化学会大会は下記の通り、2004 年 6 月 12 日（土）弘前文化センターにて、役員会、シンポジウム、研究発表等を開催する運びとなりました。シンポジウムに、研究発表に今回もまた奮ってご参加くださいますようお願い致します。

大会開催日 2004 年 6 月 12 日（土）（役員会は土曜日の予定ですので、ご留意下さい）
大会会場 弘前文化センター 〒036・8356 弘前市下白銀町 19-4
電話：0172・33・6571～2 ファックス：0172・33・6570
JR 弘前駅から徒歩 20 分、バス 10 分、車 5 分
問合先 大会実行委員会事務局 弘前大学人文学部佐藤憲和研究室
〒036・8560 弘前市文京町 1 電話：0172・36・2111（弘前大学代表）
電話：0172・39・3958（直通）／ファックス：0172・39・3958（直通）

研究発表希望者へ

レジュメをワープロなどで、B5 版横書き 1 枚にまとめて下さい。その際、左右の余白を 2 センチほど残し、2003 年 2 月 28 日必着で上記佐藤憲和宛に郵便書留で送って下さい。

シンポジウム講師の推薦依頼

次年度第 26 回大会のシンポジウムのテーマは「多文化交流の問題点」に決定しております。各支部は 12 月 31 日までに講師を推薦して下さい。

推薦された講師は上記研究発表 1 および 2 の要領で、佐藤憲和宛でレジュメをお送り下さい。なお、シンポジウムの司会は太田敬雄副会長（関東支部）に内定しております。

<司会者より> 従来学会開催担当支部がシンポジウムのテーマを決定し、その支部から司会者を出していましたが司会の依頼があった時には少々戸惑いました。しかし、NPO 法人国際比較文化研究所が昨年大勢の会員の皆様からのご援助を受けて開催しました「多文化交流 in ぐんま 2002」を考え、感謝の思いをもって司会をお受けさせていただくことにしました。

これまでの「異文化交流」では一般的には「自」と「他」の二文化間交流が考えられてきました。しかし、今は複数の社会、文化、国家が一つの場に集い協力していかなくてはならない時代です。昨年の「多文化交流 in ぐんま」の特徴は「日本の学生と外国から来た学生の二者の交流」ではなく「中国、韓国、日本の学生が対等な存在として繰り広げる交流」だったことです。このような交流によってこれまでは気づかなかった問題点が見えてきます。

例えば今年も「多文化交流 in ぐんま 2003」を準備していましたが SARS の嵐に巻き込まれ、延期せざるを得ませんでした。この原稿を書いている今、未だにいつ実現できるのかさえ定かなく、果たして実施出来るのか案じられるような状態です。三国の大学の参加となると時期の設定一つ取っても二国間のプログラムの何倍も大変になるのです。来年のシンポジウムではそれらの問題点を吟味しつつ、多文化交流のあり方について考えて見ます。（太田敬雄）

<NPO 法人国際比較文化研究所よりお願い> 他文化理解・多文化理解を深めるための諸活動をしています。人材・時間・資金のすべてが不足しています。遠くの方でも出来る協力もありますので関心をお持ちの方はご連絡ください。多文化交流のほか留学支援、国際理解教育の指導者養成、講演会等への講師派遣等のほか、他文化理解のための海外ツアー等も計画中です。

志のある方が新しいプロジェクトを立ち上げ、研究所の活動としてそれを実施していただく事も可能ではないかと考えています。

本部事務局だより

1. 入会希望者へ： 本学会に入会を希望する方は、本部事務局へ「入会申込書」を提出して下さい。折り返し必要書類をお送り致します。入会申込書は本部事務局に備えてあります。

2. 論文掲載希望者へ： 学会誌『比較文化研究』は年に4回発行しております。掲載をご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。ただしフリー制を採用し、掲載費用および別刷りは著者負担となります。本冊10部までは無料です。

(3月末日締切) 〒854-0081 諫早市栄田町1057 長崎ウェスレヤン大学内
日本比較文化学会九州支部 電話 0957-26-1234

(5月末日締切) 〒370-0068 高崎市昭和町53 新島学園女子短期大学 前田研究室内
日本比較文化学会関東支部 電話 0273-26-1155

(9月末日締切) 〒981-3105 仙台市泉区天神沢2-1-1 東北学院大学教養学部
鈴木瑠璃子研究室内 日本比較文化学会南東北支部 電話 022-773-3337
E-mail: rsuzuki@izcc.tohoku-gakuin.ac.jp

(12月末日締切) 東京都府京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学言語文化教育研究センター
山内研究室内 日本比較文化学会関西支部 電話 0774-65-7070

3. 近況報告、支部活動報告、研究部会報告、新刊紹介などを『比較文化会報』に投稿希望の方は次の要領でご応募下さい。

- (1) 近況報告(130字以内) (2) 新刊書、編註書の紹介(130字以内)
(3) エッセイ投稿(500字以内) (4) 支部報告、研究部会報告(1000字以内)

投稿締切日

毎年6月30日(第1回締切日)および毎年11月30日(第2回締切日)

投稿先 弘前学院大学文学部佐藤研究室内 日本比較文化学会

〒036-8577 弘前市稔町13-1 電話 0172-34-5211 Emailsato@hirogaku-u.ac.jp

受贈図書

井上博嗣著『ヘンリー・ソーロウ研究』桐原書店 1992年

市川郢康・安東裕介・八尋春海 共編註『21世紀の世界』—The World of 21st Century— 大阪教育図書 2003年

奥村訓代・野山 広・秋山博介 編集「マルチカルチュラルイズム—日本語支援コーディネーター」『現代のエスプリ』第432号(2003年7月)

『日本教科教育学会誌』第25巻第3号(2002年12月)、第4号(2003年3月)、
第26巻第1号(2003年6月)

International Journal of Curriculum Development and Practice, 5, No.1 (March 2003).

<編集後記> 冷夏だと言っていたら、季節はずれの台風。この会報も不順な天候にならったわけではありませんが、また発行時期がずれてしまいました。今年度の開催校責任者として原稿を下された北林先生、申しわけありません。北林先生からは、「9月からカナダの提携校であるオカナガン大学に1年間の予定で、交換教員として派遣されることになりました。帰ってきましたら、また、学会のほうもできる限り協力していきたいと思っております。また、どうぞ、よろしくお願いいたします」とのメッセージを頂いております。ありがとうございました。稔り豊かなご滞在になりますように。帰国報告を楽しみにしています。(中澤)